



### 01 岸田川水系下流部・河口部

**保全** 河口部には、海岸砂浜草原が発達する。下流部に至るまで、水質が良好で、低水温が維持されている。冷水性魚類・通し回遊性\*1の魚類が多い。サケ・アユが遡上し、産卵場所がある。



河口

**課題** 堰湛水域やその下のS型淵を除くと、規模の大きな淵は比較的少なく、河川形態はやや単調化の傾向がある。




単調な河川

### 02 味原川・三谷川・田井川

**課題** 田井川、味原川の一部では、低水護岸率が高く、河川形態が単調。聞取調査では、河原の“ヨシの増加”を指摘する回答がある。

### 04 岸田川中流の河川合流点

**保全** 各支川の合流部には、後背水域が散在し、多様な水辺環境が形成されている。水辺に自然林・二次林が接する区間が多い。アユの主要な漁場。



多様な水辺環境


**課題** 堰湛水域やその下のS型淵を除くと、大きな淵は比較的少ない。河原にヨシが増加した(聞取)。底生動物の種数が少ない傾向があった。

### 03 岸田川下流部(七釜付近)

**課題** 水面比高(約1.3m)が大きく、魚道のない横断工作物があり、その下流側がカマキリなどの多くの通し回遊魚の確認上限になっている。この堰が魚類の遡上を阻害している疑いがある。


### 09 岸田川・照来川合流点

**保全** 比較的大きな蛇行、M型淵、山付部が揃ってみられ、中流域としてはすぐれた河川形態が残されている。



### 11 岸田川上流部(照来川から上流)

**保全** 源流部では、水辺に自然林・二次林が接する区間が多い。上流部は、山地溪流の魚類相がみられる。



**課題** 瀬淵の変化が乏しくなり河川形態が単調化している(聞取)。横断工作物の密度はそれほど高くないが、魚道がない比高の高い堰が散在する。上流域としては、浮石率が顕著に低い地点があった。山地溪流としては、底生動物の確認種数がやや少ない。

### 05 田君川

**保全** 下流部には希少な沈水植物の群落がある。

**課題** 聞取調査では、河原の“ヨシの増加”を指摘する回答がある。底生動物の種数が少ない傾向があった。

### 06 久斗川

**保全** 久斗川中流～上流部では、大きな蛇行があり、水辺に自然林・二次林が接する区間が多い。久斗川下流部・久谷川には水生植物群落が発達する。中流部には、上流部は、本川上流部よりも底生動物の種数が多い。

**課題** 久斗川中流部では夏季に水が涸れることがある(聞取)。久谷川中流では強い濁りがみられた。

### 07 熊谷川


**保全** 水辺に自然林・二次林が接する区間が多い。



### 08 春木川下流

**保全** 中下流部には、オオサンショウウオの生息情報がある(聞取)。

**課題** 横断工作物の密度がかなり高い。下流部の温泉街からの排水流入により、電気伝導度、水温が高い傾向にある。

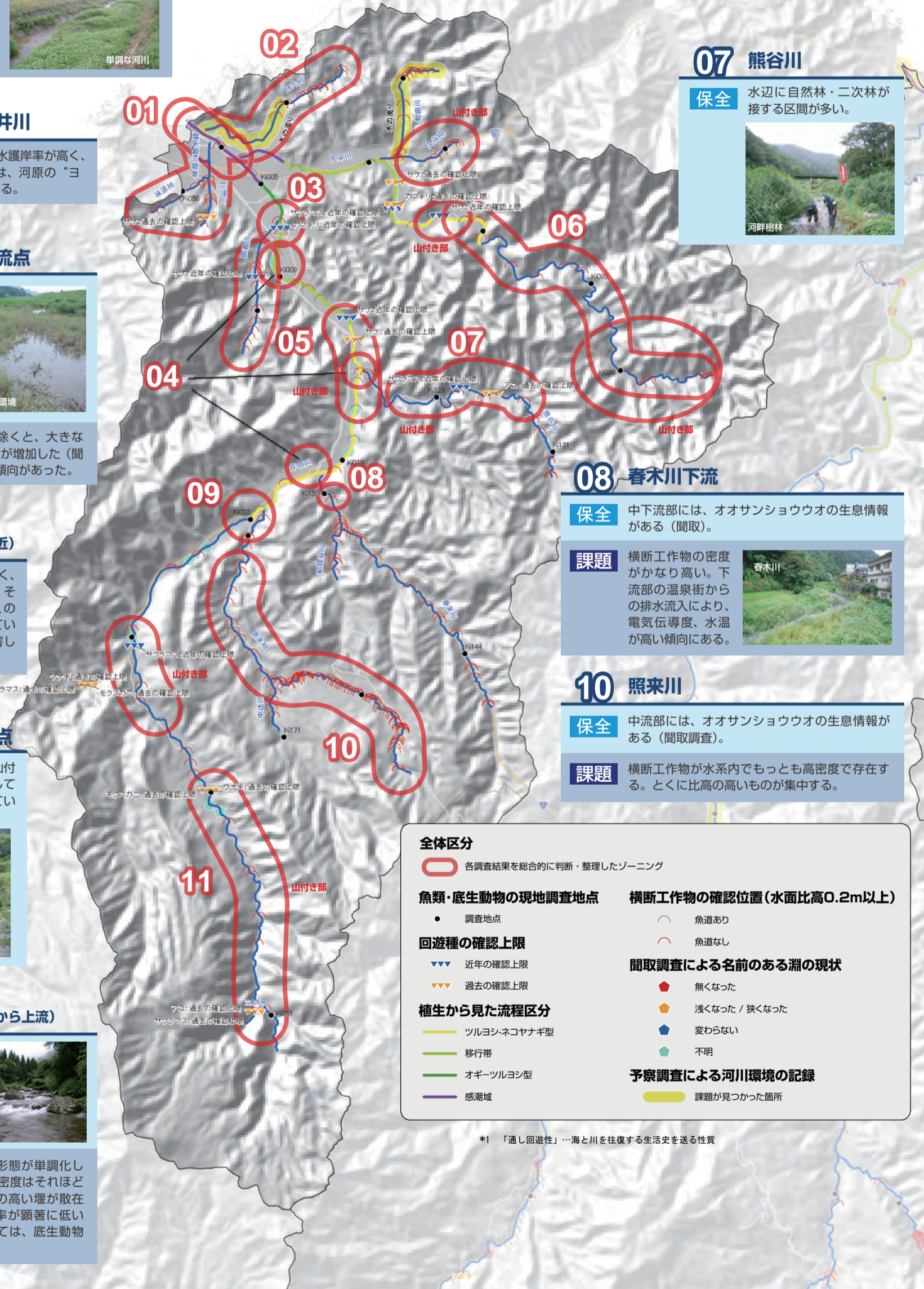


春木川

### 10 照来川

**保全** 中流部には、オオサンショウウオの生息情報がある(聞取調査)。

**課題** 横断工作物が水系内でもっとも高密度で存在する。とくに比高の高いものが集中する。



**全体区分**

- 各調査結果を総合的に判断・整理したゾーニング

**魚類・底生動物の現地調査地点**

- 調査地点

**回遊魚の確認上限**

- 近年の確認上限
- 過去の確認上限

**植生から見た流程区分**

- ツルヨシ・ネコヤナギ型
- 移行帯
- オギー・ツルヨシ型
- 感潮域

**横断工作物の確認位置(水面比高0.2m以上)**

- 魚道あり
- 魚道なし

**聞取調査による名前のある淵の現状**

- 無くなった
- 浅くなった/狭くなった
- 変わらない
- 不明

**予察調査による河川環境の記録**

- 課題が見つかった箇所

\*1 「通し回遊性」…海と川を往復する生活史を送る性質